

もものくいんぼう すけっちびより

第46回

豊かな海の幸と 豊かな自然、 ラッコがくる岬

厚岸町、浜中町、と言えば、ホタテ、牡蠣^{かき}、アサリ、北寄貝^{ほっきがい}と貝類が豊富なイメージ。いやイメージじゃなくて本当に豊富な場所だ。何度か釧路からJR花咲線に乗って根室まで行ったことがあり、途中下車したくなるのだが限られた時間や日数での移動が多く、今日までその願いは叶^{かな}えられていない。しかしながら、釧路でも札幌でも、美味しいものを食べに行くと、厚岸や浜中の美味しい貝に出会う確率は高い！家の近所のお店にもあり、貝好きな私はアサリをよく買って酒蒸しにして縄文人^{じこ}の如く貝塚を築いている。

そんな豊富な海の幸に引き寄せられたのが、浜中の突端にある霧多布岬^{きりたつぶ}で野生のラッコがやってきているそう。ちょうど今仕事でラッコやカワウソの絵を描いているので、とても気になる場所だ。昔、毛皮を取るために乱獲され、絶滅危惧種だったラッコがその保護が進んで増え、北方から海流に乗ってやってきたそう。そして、最近になり、霧多布岬が繁殖地になりつつあるという。ラッコたちは栄養豊富な食べ物があって子育てに良さそうだと霧多布岬を選んだのだろうか。仰向けでお腹の上の貝を石で割って食べるラッコ。子育てはそのお腹に赤ちゃんを乗せている。これは見に行きたい！とワクワクしてしまった。

とはいえ、自然と関わる時その場所の背景を知らずに行くのはやめたいと肝に銘じている。少しでも背景を知ってから行きたい。以前、アザラシの保護と漁業への被害を聞き、その難しさに考えさせられた。私自身、熊の絵を描き、鹿を食べ、自然と人との共生について考える。でも、それも人間の勝手な目線なのだけ。自然に生きるものはあるがままなのだから。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ会員

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著にJR北海道車内誌での連載を2019年から2022年までの3年間分をまとめた「ももが行く ほっかいどう くいしん坊のスロー旅」（北海道新聞社）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ。」